



各教会のアクションプラン中
間発表をお聞きし、全体的に見
ますと、第一回目より充実した
内容になっていると思えました。
教区内各教会がもつ歴史や伝統

に裏付けされた特徴を活かしな
がら、宣教プランを練っている
ことがよくわかりました。これ
を作成するために、多くの人た
ちが関わり、多くの時間を割き、
報告書を作成していただきま
す。ことに深く感謝いたしま
す。

ロンドン教区の成功

私たちが日本聖公会の宣
教ビジョンとアクションプ
ランに関わる過去の出来事
を振り返るとき「明日の教
会を築く会」を思い出しま
す。この会は、「神の宣教
に参与するいきいきとした
協働を実現する」ことを目
的とし、1977年に日本
聖公会訓練計画として発足
し、様々な訓練が実施され

ましたが、残念ながら、多くの
人たちが期待し待ち望んだ教会
は誕生しませんでした。
訓練計画委員会が実施的に開
催不可能となった1990年の
2年前、ランベス会議が開催さ
れ、21世紀を迎えるにあたり、
直前の10年間を「福音伝道の10
年」と定めました。そして、1
998年のランベス会議に際し
て、各教会の宣教プラン実施状
況を報告するように要請され、
当時、私も神戸教区の報告書作
成に関わりました。しかし、報
告書通りの活動を実施すること
ができませんでしたし、欧米の
聖公会各教会も同様でした。一
方、アフリカと東南アジアの教
会は21世紀に入り、急成長を遂
げたのでした。

1994年、英国聖公会ロン
ドン教区では、後にヨーク大主
教に就任した、デービッド・ホー
プ主教の主導により、私たちが
今行っているような宣教アクシ
ョンプラン (MAP・Mission
Action Plan) を策定し、それ
を各教会・伝道区が試行錯誤し
ながら実施することによって次
第に実を結ぶようになりました。
主日礼拝出席者に関していえば、
他教区の主日礼拝出席者数は減
少しているにもかかわらず、1
995年からロンドンだけは上
昇に転じ、最近では10%を維持
しております。恐らく、実行計
画の失敗にもめげずに、それを
反省し、新たなプランを作成し、
具体的な成果を得ることができ
たと思われます。ちなみに、こ
のMAPは現在、15以上の英国
聖公会教区が採用しております。
すでに学びましたように、聖
公会における5つの指標のII
「洗礼を受け、新しく信徒になっ
た人を教え、養育する」だけが
教会の存在意義ではないことを
再確認したいと思えます。

イエスの活動が宣教の原点

ルカ福音書7章では、獄中か
ら洗礼者ヨハネが使者を遣わし
て、来るべきかたはあなたでし
ょうか、それともほかの人を待た
なければなりませんか、との質
問に対するイエスの答えは、
「目の見えない人は見え、足の
不自由な人は歩き、重い皮膚病
を患っている人は清くなり、耳

の聞こえない人は聞こえ、…
貧しい人は福音を告げ知らされ
ている」でした。
神の子イエスの使命は、この
人たちに救いの手を差し伸べ、
救済することでした。最初の教
会の人たちは互いに協力しあい、
助け合って生活をしていました
が、イエスの意思を継承するか
たちで、「悩む人、悲しむ人、
病気の人、貧しい人、その他災
いのうちにある人びとに仕える
(祈禱書474頁)」ために執事
職が設けられ、これらの人たち
のために活動を開始しました。
振り返って、日本のキリスト
者人口は近年、1%以下に減少
しております。どうしてなので
しょうか。

画一化した教会からの脱皮

日本のキリスト教低迷の最大
の原因は、特に1960年代後
半から経済成長を目指しよく進
じた日本にあって、高度経済成
長のかげで苦しんだ、中小・零
細企業で働く人たちがその家族
に共感することをしなかったと
ころにあります。逆に、その人
たちの心をとらえたのが創価学
会や立正佼成会といった新興宗
教団体であったのです。
1980年以後、表面的には

イエスの活動が宣教の原点

の聞こえない人は聞こえ、…
貧しい人は福音を告げ知らされ
ている」でした。
神の子イエスの使命は、この
人たちに救いの手を差し伸べ、
救済することでした。最初の教
会の人たちは互いに協力しあい、
助け合って生活をしていました
が、イエスの意思を継承するか
たちで、「悩む人、悲しむ人、
病気の人、貧しい人、その他災
いのうちにある人びとに仕える
(祈禱書474頁)」ために執事
職が設けられ、これらの人たち
のために活動を開始しました。
振り返って、日本のキリスト
者人口は近年、1%以下に減少
しております。どうしてなので
しょうか。

の聞こえない人は聞こえ、…
貧しい人は福音を告げ知らされ
ている」でした。

日本聖公会 神戸教区報

神のおとずれ

2014年
9月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 芳我秀一

印刷所
文明堂印刷所

イエスの姿勢に学ぼう

第二回宣教協議会講評
主教 アンデレ 中村 豊

健常者として振る舞う人たちが教会員の多数を占め、多様性を欠く教会に変質したのではないのでしょうか。

その視点は、放蕩息子の兄の姿勢に通じるものがあるかもしれません。放蕩の限りを尽くして家に舞い戻った弟は、きっと自分たちの財産を狙うに違いない。大歓迎して弟を迎え入れた父も理解できない。このようにして弟への憎しみをますます深めたのでした。父の、子どもへの愛情と支えを、上の息子は全く理解することが出来なかったのです。

今日の教会は、心身ともに問題を抱えている人たちの側に寄り、この人たちの声を聞くことが、ますます困難になってしまった。これが現実ではなかったかと思わざるを得ません。

このような反省に立ち、第1に、私たちの教会は、社会やキリスト者の弱さを直視し、それに共感するプラン作成が今後求められると思います。

第2に、宣教プラン実施にあたり、新たな人材の発掘と登用をしないかぎり、それが成功裏に終わる確率はきわめて低くなると予測されます。

第3に、私たちキリスト者一

人ひとり、神の計画を遂行するために召し出され、用いられている、という信仰の自覚がない限り、教会の奉仕活動に喜びと変化は与えられません。

第4に、すべての人たちが教会の将来像をイメージすることはできないと思うのですが、様々な意見を出し合うなかで、それを構築することが可能となりま。それを信徒一人ひとりが共有しながら、具体的な計画立案と実行が望まれます。

教区宣教140年に向けて

2016年には、教区宣教140年をお祝いします。教区史の編纂作業はすでに始まっておりますが、本日のアクションプランの達成度をこの時に発表すると共に、それぞれの教会の歴史と今後の有り様を見えるかたちで公表し、それを映像化して、他の教会の人たちが機会を捉えてそれを鑑賞することを通して、共にある兄弟姉妹の絆を深め、教会の宣教活動の励みになっていただければと望んでおります。

お休みの日にかかわらず、今まで教区・教会のために時間を割いていただいたことに深く感謝し、私の講評といたします。

(神戸教区主教)

第二回神戸教区宣教協議会開催

バプテスマのヨハネ

佐賀 有道

去る七月二十一日、聖ミカエル大聖堂で第二回教区宣教協議会が開かれました。協議会の目的は、2016年に向けての中間報告会と分かち合いを期するものです。二十七名の教会代表の報告により、各教会のビジョン、アクションプランと進捗状態、問題点が明らかにされました。ビジョンやアクションプラ

ンはパワーポイントの説明により具体的に分かりやすく、問題点の解明の道筋が見えてきました。その後のハグループでの分かち合いは、実に真剣な話し合いとなりました。振り返りのポイントとして、どのような問題点があったか、どのように解決してきたか、解決に必要なものが見つかったかについて、教会の宣教活動の歩みに基づいて率直に感想を出し合いました。

その一部を紹介します

と 自給できる大きな教会と家族で祈る小さな教会と宣教活動が二分化しているのではないか。伝道区を通じた宣教の取り組みを進めよう。まだまだ具体的なビジョンをもつて皆の意思を一致する姿が見られない。宣教協議会の取り組みが漠然としているのではないか。各教会では、どのように祈り合いをしているのか。野外集会や家族集会をどのように進めているのか。青少年が教会に来なくな

(宣教委員、境復活教会)



るのは何故か。新たな取り組みを提案しても、協調しない会員が出るのは何故か。地域に開かれた教会になりにくいのは何故か。

このような真摯な分かち合いの姿は、各教会の宣教の取り組みから醸し出されるものです。このたびの教会の中間報告は、宣教協議会のまとめとして各教会に報告されます。それぞれの教会では、次回の宣教協議会までに進められるよう課題をもってともに分かち合いたいと思っております。

沖縄週間に参加して

マリナ 杉野 有沙

6月20〜23日の間、沖縄県で行われていた沖縄週間に参加してきました。沖縄に行くのが今回初めてだったということもあり、私は沖縄で起こった戦争のことや、いま日本が抱えている問題についてちゃんと理解できている気が付きました。

この沖縄の旅では、嘉手納基地、コザ騒動が起こった沖縄市のコザ、アメリカ軍の新基地建設地の辺野古、魂魄の塔といった様々な場所に行き、また、たくさんの方からお話を聞きました。私が今回の沖縄の旅に参加



して一番学んだことは、平和について考えるために先ずは現地のことを実際に自分の目で見て、体験して知ることです。沖縄週間に参加するまでは、アメリカ軍の基地が嘉手納市の83%を占めるほど広大だということ、アメリカ軍の戦闘機がものすごい騒音を出しながら飛んでいるということ、沖縄の地でコザ騒動事件があったということ、辺野古の海がとてもきれいだということ：何もかも知りませんでした。テレビのニュースでは決して伝わらないこと、学校の授業では学ばないことを知ることができました。また、辺野古に行ったとき現地のおばあさんが言っていた「私たちが今、辺野古を守っているのはあなたたちのため、未来のためだよ。」という言葉に、私はとても感銘を受けました。おじいさんおばあさんは未来の日本のために平和を願っているのに、今の若者は戦争の事・いま日本が抱えている問題に無関心な人が多いような気がします。また、無関心ではないが知らないという人も多いと思います。これか



らの未来を作っていく中心となるのは私たち若者であるのに、私たちが何も知らない・無関心のままでいるのはとても罪なことだなど思いました。私たちが日本人として、むしろ私たちがそが一緒に平和を願って訴えていくべきなのではないかと思えます。

沖縄週間で学んだことは、参加した人だけで留めておくのではなく、いろんな方々に伝えていってこそ意味のあるものだと思います。だからちゃんと伝えていきたいなと思っています。

(神戸聖ミカエル教会)

聖オーガスチン教会

建築奮闘記⑦

ジョセフィン 加藤 正恵

昨年の秋から、引っ越しのために残す物、廃棄する物を少しずつ選別して来ました。本格的に始めたのは、教会記念日(5月18日)が終わってからでした。解体業者に任せればすべて産業廃棄物として処理されます。私たちは出来る限り分類をして負担の軽減に努めました。

たとえばパイプ椅子は電動ドリルですべての椅子を分解し、金属専門のリサイクル店に引き取ってもらい、物置も2つ解体しました。生活ごみも分類し、近所の入江さんが、その都度捨てて下さいました。

長い間に溜まった多くの物を必要な物、そうでない物を分類するのは思った以上に大変な作業でした。それでも多くの方たちに支えられ、無事に礼拝堂に引っ越すことが出来て感謝でした。

解体されていく教会ホール・牧師館を見ていると、かつて幼稚園だったころの園児の笑い声、司祭家族の日常の生活

青年会のワークキャンプ、バザーなどを思いめぐらし、感無量でした。

積み重ねられた歴史の上に、私たちは何が残せるのでしょうか？新しい建物を完成させることが私たちのゴールではありません。次の世代に借金ではなく、信仰を渡すことが必要なのです。

「置かれた場所で咲く」これは婦人会大会のテーマでした。「参加して良かった。多くの婦人の励ましの言葉が嬉しかった」と聞きました。聞いた私も皆様の気持ちにとっても感謝しています。

岡山の信徒は今精一杯、頑張っています。皆様の一層のご支援ご協力をお願いします。



信徒神学塾スクーリング報告

7月19日(土) 神戸聖ミカエル大聖堂にて、2013年度の信徒神学塾のスクーリングが開催され、教区内から約50名が参加されました。

第1部は、名古屋学院大学講師の黒柳志仁氏から『詩編のころー思い出を記憶するー』というテーマでの講話がありました。

黒柳氏は、神戸国際大学卒業生で、大学在学中にキリスト教と出会ったことで洗礼を受けられ、卒業後は同志社大学大学院、ドイツのハンブルク大学とミュンヘン大学で旧約聖書の学びを深められました。

今回の講話では、旧約聖書の中に『詩編』が過去から現在、そして未来へと向けられる「思い出を記憶している書物」であること。また、詩編が単に過去に記された言葉ではなく、過去の思い出を現在に、そして未来へと繋げる大切な神様の言葉を記した書物である、ということを通じていただきました。

というテーマでの講話が行われました。

聖書の授業をどのように行っているのか、ということを中心に、チャプレンの語源、学校でのチャプレンの役割などについての講話があり、キリスト教主義学校の現状と課題、ホスピスなどへのチャプレンの派遣など、多岐にわたる聖公会のチャプレンの働き・チャプレンシーへの示唆を語られました。

新聞などで「日本の先生は世界一忙しい」という調査結果が報道されていますが、「チャプレンシーはその現場にいる全てのキリスト者が担っているのです。関係学校・幼稚園・施設などでのキリスト者の働きが、閉塞状況にある教区宣教の突破口です。チャプレンの使命は人々とイエスさま(教会)を繋げることです。」という現場体験に基づく言葉で講義を締めくくられました。

長年にわたり「通信教育とスクーリング」という形式で運営してきた信徒神学塾ですが、来年度はリニューアルへの準備期間として休講となります。

- 祝 洗 礼
7月6日(日)
ルイス ルイフランキー
カトリーナ 岡 本 佳 世
エレナ 岡 本 愛 怜 奈
クリスティーナ
岡 本 天 愛 奈
高知聖パウロ教会

祝 堅 信
7月6日(日)
ルイス ルイフランキー
カトリーナ 岡 本 佳 世
エレナ 岡 本 愛 怜 奈
マリヤ 松 下 麻 記 子
グレース 松 下 綾 夏
ジョセフィーヌ
横 畑 小 雪
高知聖パウロ教会

ヨハネ・パウロ
飯 田 光 夫
バルナバ 竹 原 裕 輔
姫路顕栄教会

7月20日(日)
マリア・マグダレン
吉 田 久 仁 子
明石聖マリア・マグダレン教会

7月6日(日)
アゲネス 真 庭 恵 子
姫路顕栄教会

鳩だより 《敬称略》

祝 洗 礼

7月6日(日)
ルイス ルイフランキー
カトリーナ 岡 本 佳 世
エレナ 岡 本 愛 怜 奈
クリスティーナ
岡 本 天 愛 奈
高知聖パウロ教会

祝 堅 信

7月6日(日)
ルイス ルイフランキー
カトリーナ 岡 本 佳 世
エレナ 岡 本 愛 怜 奈
マリヤ 松 下 麻 記 子
グレース 松 下 綾 夏
ジョセフィーヌ
横 畑 小 雪
高知聖パウロ教会

ヤコブ 牧 野 道 信
富岡キリスト教会
7月8日(火)
マルコ 後 藤 幸 則
神戸聖ヨハネ教会

7月13日(日)
ハンナ 宇佐見 美代子
米子聖ニコラス教会

山陰伝道区

◎米子聖ニコラス教会
7月24日(木) 25日(金)、米子聖ニコラス教会の子どもの教会学校のキャンプが大山の松蔭ロッジにて行われ、子ども23名、大人14名が参加した。24日は、宝探しゲームをして、流しそうめんと手巻き寿司を食べ、夜はキャンドルサーブिसや花火、夜の虫探しをした。25日は礼拝後、川で遊び、自分たちで作っ

たおにぎりやスイカを食べて、大山の自然をおもいっきり満喫してキャンプを終えた。

広島伝道区

◎伝道区合同日曜学校キャンプ
7月28日(月) 29日(火)、広島県湯来町にあるYMCAコンフォレスト湯来に30名の参加者が集まった。今年のテーマは『いつも喜んでいなさい』。大自然の中でアスレチック、スイカ割り、ビンゴゲーム、花火、ピザ作りなどを通して、参加者の笑顔いっぱいになった。今年、このキャンプの中からも、今年、このキャンプの中からも、これまでの各教会での働きはもろろん、このキャンプもまた、今後も続けていきたい。

Table with 2 columns: Date and Name. Title: 10月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式. Includes dates from 10/1 to 10/31 and names of deceased members.